



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：金融・為替関連（3月2日～13日）

1. インフレ率に関するイラン中央銀行の発表（2日付ハムシャフリー紙）

イラン中央銀行は、ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1391年バフマン月（2013年1月20日～2月18日）における年間インフレ率は29.8%であったと発表した。前月のデイ月（2012年12月21日～2013年1月19日）におけるインフレ率と比較し、1.1%の上昇となっている。

2. インフレーションの継続理由（3日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

イラン国会研究所は、イランでインフレーションが継続している要因として、流動性の増加、拡張的金融政策と予算不足、消費者層の年齢の上昇、輸入品の物価上昇、外貨の上昇、石油収入の急変動を挙げている。

3. 赤肉の外貨割当優先順位引き下げ（5日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

市場統制特別委員会の匿名のメンバーは、赤肉（主に羊肉）輸入への外貨割当に関する大統領からの特命について言及し「赤肉の外貨割当優先順位は、カテゴリ1からカテゴリ3に引き下げられた」と述べた。

4. 外為市場でのリヤール価格上昇の要因（6日付イーラーン紙）

為替センターのキャリーミ報道官は、外為市場でのリヤール価格が上昇した要因について「外貨需要が調整されたこと、市場に外貨が潤沢に供給されたことなどが挙げられる。ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1391年エスファンド月（2013年2月19日～3月20日）には、前月・前々月と比べ5倍の外貨が供給された」と述べた。

5. 公定レートの廃止（9日付シャルグ紙）

3カ月後のヒジュラ太陽暦（イラン暦）1392年ティール月（2013年6月22日～7月22日）から、公定レート（1米ドル=12,260リヤール）が廃止され、為替センターで取り扱う非参照レート（1米ドル=約25,000リヤール前後）のみに切り替わる予定である。これにより、全てのカテゴリの輸入品に関して、非参照レートを為替センターで受け取ることになる。現在、公定レートで輸入されている物資の価格上昇が予想される。

6. 為替変動対策（10日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

市場での為替変動は、イラン経済に対し約12カ月もの間、深刻な影響を及ぼしてきた。石油収入がさらに減少し、新たな制裁やそれに伴う報道がなされることが、今後予想される。為替センターはこれを制御するだけの力を有しており、かつ、イラン中央銀行もまた、市場操作への対策や市場介入をすることが出来る。為替変動対策は、来年〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕の経済問題に関する課題となることが予想される。

7. インフレの要因の変化（11日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1388年（2009年3月21日～2010年3月20日）以降、インフレの要因が変化している。それまでのインフレは主に、不動産や住宅分野に投資がなされることで生じていたが、1388年以降は、流動性が上昇し金貨や外貨に資金が流入するようになったことが要因となっている。

8. 航空会社に対する外貨供給（11日付ケイハーン紙）

運輸・都市開発省次官は、航空会社に対して外貨を供給すると発表し、「航空会社が月間5,000万米ドルの外貨を必要としている。我々が今回航空会社に対して講じた処置は、為替センター・レートのみドルを2億米ドル供給し、かつ、ジェット燃料を1リットル当たり7,000リヤールで供給することである」と述べた。

9. 銀行部門の超過負債の増大（13日付ドンヤーイエ・エグテサード紙）

イラン中央銀行の最新資料によると、銀行部門の超過負債が、ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1391年（2012年3月20日～2013年3月20日）末に向けて増大しており、現在の所、総額800兆リヤールに上ることが明らかになった。これは、1384年上半期（2005年3月21日～9月22日）比の16倍に相当する。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799